

1978年

日中平和友好条約が八月に北京で調印。十月には鄧小平副総理が来日し、東京で批准書を交換、兩國関係は新たな友好の時代に入った。中国では「四人組」に活動を停止されていた中国文学芸術界連合会や傘下の作家、演劇家、美術家、音楽家等の各協会の再建、活動再開の動きが始まった。折しも北京で開催した「東山魁夷展」は、連日熱心に鑑賞する観覧者で溢れた。年末に鄧小平党副主席の主導



「東山魁夷展」が北京の労働人民文化宮・大殿で盛大に開催された。現代日本画家の個展が開かれるのはこれが初めてで、東山芸術は深い感動をもって迎えられた

一九七八年五月二十六日

で「四つの現代化」促進、改革開放路線への大転換が決定された。日本では成田に新空港完成、年末に福田内閣に替わり大平内閣が成立。

七八年の主な交流

- ◎1月 「中国出土文物展」東京展(池袋、西武美術館)開幕、主催は当協会、日本経済新聞社、西武美術館、東京新聞。
- ◎3月 日本美術家訪中団(高山辰雄団長、今泉篤男、横田東一、長沢正夫、福王寺法林、利根山光人、赤堀尚、奥谷博、鈴木藏、川添修司、高山由紀子らの諸氏)訪中。
- ◎4月 日中文化交流協会代表団(宮川寅雄団長、宮川チトセ、戸板康二副団長、白土吾夫秘書長、岡本太郎、牛山純一、篠田正浩、磯崎新、森敏孝、佐藤純子秘書の諸氏)訪中。日本JNN報道局長友好代表団(濱口浩三東京放送



日本作家代表団が訪中 中国文学界の古くからの友人たちと再会を喜ぶ井上靖団長(右一)、(左へ)劉白羽、張光年、謝冰心、巴金、李季らの諸氏
—1978年5月26日 北京

- ◎5月 井上靖夫妻敦煌へ。日本出版印刷界友好訪中団、服部敏幸講談社社長代行を団長とし、光文社、共同製本、主婦の友社、岩波書店、凸版印刷、図書印刷、共同印刷、東京図書館、牧製本印刷、平凡社、徳間書店、小学館、大日本印刷の代表者の諸氏訪中。日本テレビ本部長を団長、大越幸夫同報道局長を副団長、古谷綱正同解説室委員を顧問に、北海道放送、青森テレビ、東北放送、岩手放送、福島テレビ、新潟放送、北陸放送、信越放送、テレビ山梨、静岡放送、中部日本放送、毎日放送、山陰放送、山陽放送、テレビ山口、中国放送、テレビ高知、RKB毎日放送、大分放送、熊本放送、長崎放送、宮崎放送、南日本放送、琉球放送の各報道局長、村岡久平秘書長)一行三十一名訪中。



日本音楽家代表団で初めて訪中したダーク・ダックス 北京ダックを前におどけて記念撮影をする喜早哲(左一)、佐々木行(左二)、遠山一(右一)、高見澤宏(右二)の諸氏。中国では「黒鴨子小合唱隊」として親しまれた
—1978年7月14日 北京

- アーチエリー選手団(細井英彦団長)訪中。日本作家代表団(井上靖団長、水上勉副団長、白土吾夫秘書長、阪田寛夫、奥野健男、城山三郎、尾崎秀樹、三好徹、山田智彦、佐藤純子秘書の諸氏)訪中。「東山魁夷展」、北京・労働人民文化宮で開催、開幕式に同展代表団(東山魁夷、東山すみ、圓城寺次郎、白土吾夫、安達健一、谷岡清、木村美智子らの諸氏)が出席。同展は瀋陽・遼寧省美術館でも開催。
- ◎6月 日本フエッティング選手団(千葉卓朗団長)訪中。小澤征爾氏が、当協会と中国人民対外友好協会との協議に基づき訪中、北京で中国中央樂團を指揮。中国女子バスケットボール選手団(張長祿団長)来日。
- ◎7月 日本音楽家代表団(團伊玖磨団長、佐藤純子秘書長、大木正興、千葉馨、園田高弘、ダーク・ダックス、遠山一、喜早哲、佐々木行、高見澤宏、白石哲也、谷崎朋弘、戸室道子秘書の諸氏)訪中。金原出版医学友好代表団(金原秀雄団長、社長、室岡一日医大教授、東條静夫筑波大教授、大國真彦日大教授、北川龍一筑波大教授、中村紀夫慈恵医大教授、大塚恭男北里研究所付属東洋医学総合研究所部長、酒井シヅ順天堂大講師、古谷勲金原出版取締役の諸氏)訪中。
- ◎8月 日本考古学者代表団(宮川寅雄団長、白土吾夫秘書長、三上次男、関野雄、藤田国雄、護雅夫、前田耕作、村瀬雅夫、木村美智子秘書の諸氏)訪中。
- ◎9月 第二回中国映画祭に中国映画

日本作家代表団が訪中 中国文学界の古くからの友人たちと再会を喜ぶ井上靖団長(右一)、(左へ)劉白羽、張光年、謝冰心、巴金、李季らの諸氏
—1978年5月26日 北京



↑北京にブルームスが流れた日、拍手に应える指揮者小澤征爾氏。会場を埋めた聴衆一万八千人

一九七八年六月十六日 北京・首都体育館



大同の雲崗石窟を訪れた日の
中文化交流協会代表団の
(左から)岡本太郎、牛山純
一、篠田正浩、戸板康二、森
敏孝の諸氏 —1978年4月21日



＜左＞博物館建設中の秦始皇
兵馬俑出土現場での日本考
古学者代表団。中央に宮川
寅雄団長。三上次男、護雅
夫、前田耕作ら諸氏の顔も
見える —1978年8月14日 西安

代表団(袁文殊団長)来日。中国陸上
競技代表団(陳培民団長、中国出版印
刷代表団(許力以団長、史育才副団長、
馬飛海、鄧炬雲、遇衍濱、葉再生、朱
譜萱、周寿彭、王祖浩、李英才、湯仲
凱、鄭力の諸氏)来日。「第二回中国医
学図書展示会」開催、主催・金原出版
と当協会。日本書道家友好訪中団(金
子鷗亭団長、金子寛子、佐藤祥子秘書、
續木湖山、小林斗盞、大平山濤、萩原

東邨、藤本香艸、林蕉園、野崎幽谷、
石橋鯉城、金子卓義らの諸氏)訪中。
奈良県青年友好訪中団「希望のつばさ」
(滝井芳尚団長)訪中。

◎10月 中国科学院半導体材料考察団
(関嗣桂団長、葉式中、王渭源、褚一
鳴、姚奎鴻、張治平の諸氏)来日。日
本「中国文物・歴史」研究者友好訪中
団(森鹿三団長、森喜代、中根寛顧問、大
庭脩副団長兼秘書長、紀国憲一副団長、
橋本雄彦、影山剛、米田賢次郎、佐藤武
敏、吉田光邦、石元泰博、石元滋子、伊藤
道治、小石原昭、日原利国、田中稔、狩野
直禎、西村恭子、杉本憲司、中村弘子、狩
野久、楠山修作、柳原睦夫、岡本健一、高
橋陸郎、上田早苗、中村圭爾、池谷秀三、
富谷至、原信之秘書の諸氏)訪中。日本

作家訪中団(尾崎秀樹団長、滝沢直子
秘書長、豊田穰、夏堀正元、榊原和夫、
佃實夫、岡田喜秋、利根川裕、安西篤子、
尾崎恵子、皆川博子、岡本好古、生島治
郎、野口武彦、野口芳子、谷克二の諸
氏)訪中。日本東北文化界代表団(和
久幸男団長・福島民友新聞社社長、白
土吾夫顧問、村上芳郎秘書長、稲井善
夫、岩月賢一、佐藤剛彦、泉田豊、村川千
秋の諸氏)訪中。中国科学院有機構造
分析化学代表団(張徳和団長、盧佩章、
沙逸仙、楊郁良、朱善農の諸氏)来日。

◎11月 日本演劇人友好訪中団(杉村
春子団長、尾崎宏次副団長、滝沢直子
秘書長、小澤栄太郎、野村昭子、人見
嘉久彦、中村たつ、黒田郷子、伊藤巴
子、梅野泰靖、鈴木智、稲野和子、氏
伸介の諸氏)訪中。

◎12月 「中国現代絵画展」(東京・山
種美術館)開催、当協会、山種美術館、
日本経済新聞社の主催、開幕式に中国
美術家代表団(李少言団長、黄永玉、
王維宝、秦劍銘らの諸氏)出席。同展
は福岡、松山、名古屋、札幌でも開催。
北京で「中国シルクロード文物展」
議定書調印。

五月の北京、日本作家代表団
と東山魁夷展代表団、両代表団
を歓迎する対外友協の王炳南会
長、夏衍副会長主催の宴席は、
さながら「四人組」の桎梏から解放さ
れた「百花齊放」の趣があった。出席
した周揚氏が、二年前の初夏の出来事
を話し始めた。——書籍を抱えて王府
井の新華書店を出た氏に、突然道の向
かい側から「周揚先生！」と叫びなが
ら駆け寄って来る人物、白土吾夫氏で
ある。しかし、ほんの二三言三言ことば
を交わしただけで、周揚氏は足早にそ
の場を去らねばならなかった。「四人
組」に一切の活動を止められてかれこ
れ十年、嚴重な監視下、中国人でも顔
を合わせないように氏を避けていた中
では、双方にとって危険な接触だった
のだ。その危険をも顧みず白土氏が街
中で声を掛けてくれたこと、「日本の
友人は私のことをまだ覚えていてくれ
る、懐かしく、またこれほど嬉しいこ
とはなかった……」と。周揚氏は文連
主席、作家協会副主席など要職に復帰
し、七九年、八四年に来日、日中文化
交流に再び尽力された。(九十九)